

Oracle® Application Server

クイック・インストレーション・ガイド

10g リリース 2 (10.1.2) for AIX 5L Based Systems (64-bit)

B50674-01

2008 年 9 月

ORACLE®

原本名 : Oracle Application Server Quick Installation Guide 10g Release 2 (10.1.2) for AIX 5L Based Systems (64-Bit)

原本部品番号 : B25202-01

Copyright © 2008 Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致しまねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software-Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空、大量輸送、医療あるいはその他の本質的に危険を伴うアプリケーションで使用されることを意図しておりません。このプログラムをかかる目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましたり、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましたり、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

2 Oracle Application Server クイック・インストレーション・ガイド

はじめに

このマニュアルで説明されている各種サービスは日本オラクル社から提供されるサービスです。サービスは、製品をご購入された日本オラクル正規代理店各社から提供される場合もありますが、サービス内容はこのマニュアルの説明と異なることがあります。

このマニュアルでは、次に示す Oracle Application Server のインストール・タイプのインストール方法について説明します。

- J2EE and Web Cache 中間層
- OracleAS Infrastructure
- Portal and Wireless 中間層
- Business Intelligence and Forms 中間層

このマニュアルの内容

- [ご注文内容の確認](#)
- [このマニュアルで説明するインストール・タイプ](#)
- [要件](#)
- [インストーラの起動](#)
- [J2EE and Web Cache \(Java 開発者トポロジ\) のインストール](#)
- [Portal and Wireless または Business Intelligence and Forms 開発者トポロジのインストール \(OracleAS Infrastructure を含む\)](#)

- 「ようこそ」ページへのアクセス
- 既存の Oracle データベースへの OracleAS Metadata Repository のインストール
- 追加情報
- その他の情報
- ドキュメントのアクセシビリティについて

1 ご注文内容の確認

メディア・パック受領後、ただちに同梱の Packing List をもとにパッケージ内容物を確認してください。破損、欠品、不明な点などのお問合せは、本製品をご購入された日本オラクル正規代理店、もしくは Oracle Direct までお寄せください。

メディア・パックには、このマニュアルの他に次の製品が同梱されています。

- 製品メディア

製品メディアには、製品をインストールするためのソフトウェアおよび README ファイルが含まれています。

- Start Here CD (赤いレーベル)

Start Here CD には、インストール・マニュアル、リリース・ノート、お役に立つインターネット・リンクおよびメディア・パックに関する情報が含まれています。

- Oracle Application Server JP Documentation Library

Oracle Application Server JP Documentation Library には、オラクル製品のオンライン・ドキュメントが含まれています。

注意： メディア・パックによって、Start Here CD や Oracle Application Server JP Documentation Library が同梱されていない製品があります。Packing List を参照して確認してください。

2 このマニュアルで説明するインストール・タイプ

このマニュアルでは、次に示す構成で Oracle Application Server をインストールするユーザーを対象にしています。

- Java Developer トポロジ : Java 開発者用です。このトポロジでは、**J2EE and Web Cache** 中間層がインストールされ、ここでアプリケーションをデプロイできます。
- Portal and Wireless 開発者 トポロジ : J2EE and Web Cache 機能のほかに、OracleAS Portal、Oracle Application Server Wireless、Oracle Internet Directory または Oracle Application Server Single Sign-On 機能を使用する Java 開発者用です。このトポロジによって、**Portal and Wireless** 中間層および**OracleAS Infrastructure** がインストールされます。
- Business Intelligence and Forms 開発者 トポロジ : J2EE and Web Cache 機能および Portal and Wireless 機能のほかに、OracleAS Personalization、OracleBI Discoverer、OracleAS Reports Services または OracleAS Forms Services 機能を使用する開発者用です。このトポロジによって、**Business Intelligence and Forms** 中間層および**OracleAS Infrastructure** がインストールされます。

より複雑なトポロジが必要な場合の詳細なインストール手順については、Oracle Application Server のインストレーション・ガイドを参照してください。

Oracle Application Server をインストールする前に、最新情報について、Oracle Application Server のリリース・ノートを参照してください。

3 要件

ご使用のコンピュータが、次の最小要件を満たしていることを確認してください。

- 第 3.1 項「システム要件の確認」
- 第 3.2 項「ソフトウェア要件の確認」
- 第 3.6 項「データベース管理者のオペレーティング・システム・グループの作成」
- 第 3.7 項「オペレーティング・システム・ユーザーの作成」
- 第 3.8 項「環境変数の確認」
- 第 3.9 項「ポート 1521 が使用されているかどうかの確認」

3.1 システム要件の確認

次の要件を満たしている必要があります。

サポートされているオペレーティング・システム

- AIX 5L Based Systems (64-Bit)

その他のシステム要件

次の表に、その他のシステム要件を示します。

表 1 最小システム要件

	J2EE and Web Cache	Portal and Wireless	Business Intelligence and Forms	OracleAS Infrastructure
メモリー（後述の「注意」の(1)を参照）	512MB	1GB	1GB	1GB
ディスク領域	1.7GB	3.1GB	3.99	4.12
TEMP ディレクトリ内の領域	400MB	400MB	400MB	400MB
スワップ領域	1.5GB	1.5GB	1.5GB	1.5GB

注意 :

- (1) Business Intelligence and Forms または Portal and Wireless を OracleAS Infrastructure と同一のコンピュータにインストールする場合は、1.5GB 以上のメモリーが必要です。
- (2) OracleAS Infrastructure のインストール先ディスクとは異なるディスクに OracleAS Metadata Repository データベースのデータ・ファイルをインストールできます。この場合は、データ・ファイル用に 1.3GB 以上の空きディスク領域を確保してください。

3.2 ソフトウェア要件の確認

ご使用の AIX のバージョンに応じて、該当するソフトウェア要件を次の項で参照してください。

- 第 3.2.1 項「AIX 5L バージョン 5.2 のソフトウェア要件」
- 第 3.2.2 項「AIX 5L バージョン 5.3 のソフトウェア要件」

3.2.1 AIX 5L バージョン 5.2 のソフトウェア要件 表 2 に、AIX 5L バージョン 5.2 のソフトウェア要件を示します。

表 2 AIX 5L バージョン 5.2 のソフトウェア要件

項目	要件
メンテナンス・レベル	04 以上
ファイルセット	bos.adt.base bos.adt.lib bos.adt.libm bos.perf.libperfstat bos.perf.perfstat bos.perf.proctools X11.motif.lib

表 2 AIX 5L バージョン 5.2 のソフトウェア要件（続き）

項目	要件
パッチ（すべてのファイルセット）	IY65001: ストライプされた lv 上で mklvcopy を実行すると lvcb の更新に失敗する IY64978: 名前変更とリンク解除の並行処理によるデッドロック IY64737: knot のロックが適切に解放されない IY64691: chvg -b が破損およびクラッシュを引き起こす場合がある IY63366: dlsym が有効なシンボルについても NULL を返す IY63133: 複数の CPU とポリューム・グループによるパフォーマンスの低下 IY69518: chvg -L / extendvg の不正な動作 IY75901: IY69518 の適用後に extendvg が破損を引き起こす場合がある IY59082: JFS2 および高い負荷によってシステムが停止する

AIX 5L バージョン 5.2 を実行する AIX ベース・システムをインストールする前に、次の手順を完了します。

1. 次のコマンドを入力して、AIX 5.2 のメンテナンス・レベル 4 以上がインストールされていることを確認します。

```
# oslevel -r  
5200-04
```

この例では、AIX のバージョンは 5.2 で、メンテナンス・レベルは 4 です。

オペレーティング・システムのバージョンが AIX 5.2.0.0 メンテナンス・レベル 4 (5200-04) 未満の場合は、ご使用のオペレーティング・システムをこのレベルまでアップグレードする必要があります。AIX 5L バージョン 5.2 のメンテナンス・パッケージは、次の Web サイトから入手できます。

<https://techsupport.services.ibm.com/server/aix.fdc>

2. 必要なファイルセットがインストールされコミットされているかどうかを確認するには、次のようなコマンドを入力します。

```
# lslpp -l bos.adt.base bos.adt.lib bos.adt.libm ¥  
bos.perf.perfstat bos.perf.libperfstat X11.motif.lib
```

AIX 5L バージョン 5.2 に必要なファイルセットの一覧は、表 2 を参照してください。

ファイルセットがインストールおよびコミットされていない場合は、インストールします。ファイルセットのインストール方法の詳細は、該当するオペレーティング・システムまたはソフトウェアのドキュメントを参照してください。

3. 表 2 に示されたパッチがインストールされていることを確認します。APAR (Authorized Program Analysis Report) がインストールされているかどうかを確認するには、次のようなコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/instfix -i -k "IY22854 IY26778 ..."
```

APAR がインストールされていない場合は、次の Web サイトからダウンロードしてインストールします。

<https://techsupport.services.ibm.com/server/aix.fdc>

3.2.2 AIX 5L バージョン 5.3 のソフトウェア要件

表 3 に、AIX 5L バージョン 5.3 のソフトウェア要件を示します。

表 3 AIX 5L バージョン 5.3 のソフトウェア要件

項目	要件
メンテナンス・レベル	02 以上

表 3 AIX 5L バージョン 5.3 のソフトウェア要件（続き）

項目	要件
ファイルセット	bos.adt.base bos.adt.lib bos.adt.libm bos.perf.libperfstat bos.perf.perfstat bos.perf.proctools X11.motif.lib
パッチ	IY70159: KRTL の再配置の問題 IY66513: LDR_CNTRL 値の解析に失敗する IY68989: mmapped された領域への書き込みが停止する

表 3 に示された各項目がシステムにインストールされているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

1. 次の例に示すように `oslevel -r` コマンドを入力して、AIX 5.3 のメンテナンス・レベル 2 以上がインストールされていることを確認します。

```
# oslevel -r  
5300-02
```

この例では、AIX のバージョンは 5.3 で、メンテナンス・レベルは 2 です。

オペレーティング・システムのバージョンが AIX 5.3.0.0 メンテナンス・レベル 2 (5300-02) 未満の場合は、ご使用のオペレーティング・システムをこのレベルまでアップグレードする必要があります。AIX 5L バージョン 5.3 のメンテナンス・パッケージは、次の Web サイトから入手できます。

<https://techsupport.services.ibm.com/server/aix.fdc>

- 必要なファイルセットがインストールされコミットされているかどうかを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# lslpp -l bos.adt.base bos.adt.lib bos.adt.libm ¥  
bos.perfstat bos.perf.libperfstat X11.motif.lib
```

AIX 5L バージョン 5.3 に必要なファイルセットの一覧は、表 3 を参照してください。

ファイルセットがインストールおよびコミットされていない場合は、インストールします。ファイルセットのインストール方法の詳細は、該当するオペレーティング・システムまたはソフトウェアのドキュメントを参照してください。

3. 表 3 に示されたパッチがインストールされていることを確認します。APAR (Authorized Program Analysis Report) がインストールされているかどうかを確認するには、次のようなコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/instfix -i -k "IY66513 IY70159 IY66513 IY60930  
IY59386"
```

APAR またはそのファイルセットの一部がインストールされていない場合は、次の Web サイトからダウンロードしてインストールします。

<https://techsupport.services.ibm.com/server/aix.fdc>

3.3 シェル制限の構成

次の表に、AIX で設定が必要なシェル制限を示します。表の後の手順では、各値の確認方法と設定方法について説明します。

シェル制限 (smi _t で表示される)	推奨値
Soft FILE size	-1 (制限なし)
Soft CPU time	-1 (制限なし)
Soft DATA segment	-1 (制限なし)
Soft STACK size	-1 (制限なし)

これらのシェル制限に対して指定されている現行値を表示および変更する手順は次のとおりです。

1. 次のコマンドを入力します。

```
# smit chuser
```

2. 「User Name」フィールドに、oracleなどのOracleソフトウェア所有者のユーザー名を入力します。
3. リストをスクロール・ダウンして、前の表に示されている弱い制限に対する値が -1 であることを確認します。
必要な場合は、既存の値を編集します。
4. 変更が完了したら、[F10] を押して終了します。

3.4 システム構成パラメータの構成

ユーザー当たりの最大許容プロセス数が 2048 以上に設定されていることを確認します。次の手順では、この値の確認方法と設定方法について説明します。

注意： 本番システムでは、この値は最低でも、システムで実行される各データベースの PROCESSES および PARALLEL_MAX_SERVERS 初期化パラメータの合計に 128 を加えた値にする必要があります。

1. 次のコマンドを入力します。

```
# smit chgssys
```

2. ユーザー当たりの最大許容プロセス数の値が 2048 以上であることを確認します。

必要な場合は、既存の値を編集します。

3. 変更が完了したら、[F10] を押して終了します。

ARG_MAX 設定が、AIX 5L に対して最大値に設定されていることを確認します。

1. ARG_MAX 値の設定を確認します。

```
prompt> getconf ARG_MAX
```

2. この値が 524288 未満の場合は、root ユーザーとして次のコマンドを実行します。

```
# chdev -l sys0 -a ncargs=128
```

3.5 インベントリ・ディレクトリのオペレーティング・システム・グループの作成

コンピュータに初めて Oracle 製品をインストールする場合は、インベントリ・ディレクトリにオペレーティング・システム・グループを作成します。インストーラによってインベントリ・ディレクトリにファイルが作成され、コンピュータにインストールされた Oracle 製品が追跡されます。

このマニュアルでは、このグループの名前に `oinstall` を使用します。

[第 3.7 項「オペレーティング・システム・ユーザーの作成」](#) で、オペレーティング・システム・ユーザーを作成し、`oinstall` グループをユーザーのプライマリ・グループに設定します。

インベントリ・ディレクトリ用に別のグループを用意することによって、様々なユーザーがコンピュータに Oracle 製品をインストールできるようになります。ユーザーは、インベントリ・ディレクトリへの書き込み権限が必要です。この権限を持つには、`oinstall` グループに所属します。

インベントリ・ディレクトリのデフォルトの名前は `oraInventory` です。

コンピュータにインベントリ・ディレクトリがすでにあるかどうかが不明な場合は、`/etc/oraInst.loc` ファイルを参照します。このファイルには、インベントリ・ディレクトリの場所と、それを所有するグループが一覧表示されます。ファイルがない場合は、そのコンピュータには Oracle 製品がインストールされていません。

3.6 データベース管理者のオペレーティング・システム・グループの作成

前述の項と同じ手順で、dba と呼ばれるオペレーティング・システム・グループを作成します。次の手順でオペレーティング・システム・ユーザーを作成すると、この dba グループはユーザーのセカンダリ・グループに設定されます。

3.7 オペレーティング・システム・ユーザーの作成

Oracle 製品のインストールとアップグレードを行うオペレーティング・システム・ユーザーを作成します。このマニュアルでは、このユーザーを oracle と呼びます。

3.8 環境変数の確認

Oracle Application Server をインストールするオペレーティング・システム・ユーザーは、次の環境変数を設定（または設定解除）する必要があります。

表 4 環境変数

環境変数	設定または設定解除
ORACLE_HOME および ORACLE_SID	設定しないでください。

表 4 環境変数（続き）

環境変数	設定または設定解除
PATH、CLASSPATH および 共有ライブラリ・パスの環 境変数	Oracle ホーム・ディレクトリ内のディレクトリ を参照するパスは含めないでください。
DISPLAY	インストーラのウィンドウを表示するモニター を設定します。
TNS_ADMIN	設定しないでください。
TMP	任意です。設定解除した場合、デフォルトで /tmp に設定されます。

3.8.1 環境変数の設定方法 この項では、環境変数を設定する方法を説明します。

C シェルの場合：

```
% setenv variable_name value
```

例（C シェル）：

```
% setenv DISPLAY test.mycompany.com:0.0
```

Bourne または Korn シェルの場合：

```
$ variable_name=value; export variable_name
```

例 (Bourne または Korn シェル) :

```
$ DISPLAY=test.mydomain.com:0.0; export DISPLAY
```

3.8.2 環境変数のヒント

この項では、環境変数を設定する場合の注意事項を説明します。

- 環境変数を `.profile` ファイルに設定すると、変数が読み取られない場合があります。環境変数に正しい値が設定されていることを確認するには、インストーラを実行するシェル内で値を確認します。
- 環境変数の値をチェックするには、`env` コマンドを使用します。これにより、現在定義されているすべての環境変数とそれらの値が表示されます。

```
% env
```
- `su` コマンドを使用してユーザーを切り替える（たとえば、`root` ユーザーから `oracle` ユーザーへ切り替える）場合、新しいユーザーは環境変数を確認します。環境変数は、新しいユーザーには渡されない場合があるからです。これは、`su` に、`-` パラメータを付けて (`su - user`) 実行した場合でも発生する可能性があります。

```
# /* root user */
# su - oracle
% env
```

3.9 ポート 1521 が使用されているかどうかの確認

この項の内容は、OracleAS Infrastructure をインストールする場合にのみ該当します。

OracleAS Infrastructure では、Oracle データベースがインストールされ、デフォルトでポート 1521 が使用されます。ポート 1521 が使用されているかどうかを確認するには、次のコマンドを実行します。

```
prompt> netstat -an | grep 1521
```

ポート 1521 がサード・パーティのアプリケーションによって使用されている場合は、別のポートを使用するようにアプリケーションを構成する必要があります。

ポート 1521 が既存の Oracle データベース・リスナーで使用されている場合は、OracleAS Infrastructure をインストールする前にリスナーを停止する必要があります。

詳細は、Oracle Application Server のインストレーション・ガイドを参照してください。

4 インストーラの起動

インストーラを起動するには、次の手順を実行します。

1. Administrators グループのメンバーであるユーザーとしてコンピュータにログインします。
2. ディスクを挿入します。

CD-ROM の場合 : Oracle Application Server Disk 1 を挿入します。

DVD の場合 : Oracle Application Server DVD を挿入します。

4.1 rootpre.sh スクリプトの実行

AIX システムに初めて Oracle ソフトウェアをインストールする場合は、rootpre.sh スクリプトを実行します。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. ディスク・ドライブに Oracle Application Server Disk 1 を挿入します。
3. 次のコマンドを入力します。

```
# mount_point/rootpre/rootpre.sh
```

5 J2EE and Web Cache (Java 開発者トポロジ) のインストール

このトポロジによって、J2EE and Web Cache 中間層がインストールされ、次のコンポーネントが提供されます。

- Oracle HTTP Server: これは Web サーバーです。
- Oracle Application Server Containers for J2EE (OC4J) : これは、J2EE アプリケーションのデプロイおよびテストに使用できる J2EE コンテナです。
- OracleAS Web Cache: このコンポーネントは、オブジェクトをキャッシュして Oracle HTTP Server の負荷を削減し、パフォーマンスを向上させます。

J2EE and Web Cache 中間層をインストールするには、次の手順を実行します。

1. インストーラを起動します。詳細は、[第 4 章「インストーラの起動」](#)を参照してください。
2. 「ようこそ」画面
「次へ」をクリックします。

3. コンピュータに初めて Oracle 製品をインストールする場合は、インストーラによって次の画面が表示されます。
- a. 「インベントリ・ディレクトリと資格証明の指定」 画面
「インベントリ・ディレクトリのフルパスを入力してください」：インベントリ・ディレクトリへのフルパスを入力します。このディレクトリは、製品ファイル用の Oracle ホーム・ディレクトリとは異なります。
例：/opt/oracle/oraInventory
「オペレーティング・システム・グループ名の指定」：インベントリ・ディレクトリへの書込み権限を持つオペレーティング・システム・グループを選択します。
例：oinstall
「次へ」をクリックします。
- b. orainstRoot.sh の実行ダイアログ
プロンプトが表示されたら、異なるシェルで root ユーザーとして orainstRoot.sh スクリプトを実行します。このスクリプトは、インベントリ・ディレクトリにあります。
スクリプトを実行した後で、「続行」をクリックします。

4. 「ファイルの場所の指定」画面

「名前」：この Oracle ホームを識別する名前を入力します。

例：OH_J2EE

「パス」：インストール先のディレクトリへのフルパスを入力します。
これは Oracle ホームです。インストール先ディレクトリが存在しない場合は、インストーラによって作成されます。

例：/opt/ora_j2ee

「次へ」をクリックします。

5. 「インストールする製品の選択」画面

「Oracle Application Server」を選択し、「次へ」をクリックします。

6. 「インストール・タイプの選択」画面

「J2EE and Web Cache」を選択し、「次へ」をクリックします。

7. 「インストール前の要件の確認」画面

この画面に表示される要件を満たしていることを確認して、すべてのチェック・ボックスを選択し、「次へ」をクリックします。

8. 「構成オプションの選択」画面

この Oracle Application Server インスタンスでキャッシュ機能を使用する場合は、「OracleAS Web Cache」を選択します。

「Identity Management Access」は選択しないでください。

「**OracleAS Farm Repository**」は選択しないでください。

「次へ」をクリックします。

9. ポート構成オプションの指定 画面

「自動」を選択し、「次へ」をクリックします。

10. インスタンス名と ias_admin パスワードの指定 画面

「**インスタンス名**」：このインスタンスの名前を入力します。インスタンス名には、英数字および_（アンダースコア）を使用できます。1つのコンピュータに複数の Oracle Application Server インスタンスがある場合は、インスタンス名は一意である必要があります。

例：J2EE

「**ias_admin パスワード**」および「**パスワードの確認**」：ias_admin ユーザーのパスワードを入力して、確認します。これは、このインスタンスの管理ユーザーです。

パスワードは 5 文字以上で、そのうちの 1 文字は数字にする必要があります。

「次へ」をクリックします。

11. サマリー 画面

選択した内容を確認し、「**インストール**」をクリックします。インストーラによって、ファイルがインストールされます。

12. root.sh の実行ダイアログ

注意：このスクリプトは、ダイアログが表示されるまで実行しないでください。

別のウィンドウで root ユーザーとしてログインし、`root.sh` スクリプトを実行します。スクリプトは、このインスタンスの Oracle ホーム・ディレクトリにあります。

`root.sh` スクリプトを実行した後で、「OK」をクリックします。

13. 「コンフィギュレーション・アシスタント」画面

この画面には、Oracle Application Server コンポーネントを構成する Configuration Assistants の進捗状況が表示されます。

14. 「インストールの終了」画面

「終了」をクリックして、インストーラを終了します。

6 Portal and Wireless または Business Intelligence and Forms 開発者トポロジのインストール (OracleAS Infrastructure を含む)

これらのトポロジによって、OracleAS Portal、Oracle Application Server Wireless および OracleBI Discoverer などのコンポーネントを使用するアプリケーションをデプロイできるようになります。

Portal and Wireless 開発者トポロジを設定するには、次のものをインストールする必要があります。

- 1. OracleAS Infrastructure**
- 2. Portal and Wireless 中間層**

Business Intelligence and Forms 開発者トポロジを設定するには、次のものをインストールする必要があります。

- 1. OracleAS Infrastructure**
- 2. Business Intelligence and Forms 中間層**

Portal and Wireless および Business Intelligence and Forms 中間層は、OracleAS Infrastructure のサービスを使用するため、最初に OracleAS Infrastructure をインストールする必要があります。

注意： OracleAS Infrastructure と、Portal and Wireless または Business Intelligence and Forms 中間層は、異なるコンピュータにインストールできます。

6.1 OracleAS Infrastructure のインストール

新しいデータベースと新しい Oracle Internet Directory を使用して OracleAS Infrastructure をインストールするには、次の手順を実行します。

1. インストーラを起動します。詳細は、[第4章「インストーラの起動」](#)を参照してください。
2. 「ようこそ」画面
「次へ」をクリックします。
3. コンピュータに初めて Oracle 製品をインストールする場合は、インストーラによって次の画面が表示されます。
 - a. 「インベントリ・ディレクトリと資格証明の指定」画面
「インベントリ・ディレクトリのフルパスを入力してください」：
インベントリ・ディレクトリへのフルパスを入力します。この
ディレクトリは、製品ファイル用の Oracle ホーム・ディレクト
リとは異なります。
例 : /opt/oracle/oraInventory

「オペレーティング・システム・グループ名の指定」：インベントリ・ディレクトリへの書き込み権限を持つオペレーティング・システム・グループを選択します。

例：oinstall

「次へ」をクリックします。

b. orainstRoot.sh の実行ダイアログ

プロンプトが表示されたら、異なるシェルで root ユーザーとして orainstRoot.sh スクリプトを実行します。このスクリプトは、インベントリ・ディレクトリにあります。

スクリプトを実行した後で、「続行」をクリックします。

4. 「ファイルの場所の指定」画面

「名前」：この Oracle ホームを識別する名前を入力します。

例：OH_INFRA

「パス」：インストール先のディレクトリへのフルパスを入力します。これは Oracle ホームです。インストール先ディレクトリが存在しない場合は、Oracle Universal Installer によって作成されます。

例：/opt/oracle/oraInfra

「次へ」をクリックします。

5. 「インストールする製品の選択」画面
「OracleAS Infrastructure」を選択し、「次へ」をクリックします。
6. 「インストール・タイプの選択」画面
「Identity Management and OracleAS Metadata Repository」を選択し、「次へ」をクリックします。
7. 「インストール前の要件の確認」画面
この画面に表示される要件を満たしていることを確認して、すべてのチェック・ボックスを選択し、「次へ」をクリックします。
8. 「構成オプションの選択」画面
「Oracle Internet Directory」を選択します。
「OracleAS Single Sign-On」を選択します。
「OracleAS Delegated Administration Service」を選択します。
「OracleAS Directory Integration and Provisioning」を選択します。
「OracleAS Certificate Authority」は選択しないでください。
「高可用性およびレプリケーション」は選択しないでください。
「次へ」をクリックします。
9. 「ポート構成オプションの指定」画面
「自動」を選択し、「次へ」をクリックします。

10. 「Internet Directory のネームスペースの指定」画面

「推奨ネームスペース」を選択し、「次へ」をクリックします。

11. 「データベース構成オプションの指定」画面

「グローバル・データベース名」: OracleAS Metadata Repository データベースの名前を入力し、ドメイン名をデータベース名に追加します。

グローバル・データベース名のデータベース名の部分は、次のように指定します。

- 英数字のみを使用できます。
- 8 文字以下で指定する必要があります。
- 大文字の「PORT」または「HOST」という単語は使用できません。これらの単語を使用する必要がある場合は、小文字を使用してください。

グローバル・データベース名のドメイン名の部分は、次のように指定します。

- 英数字、_ (アンダースコア)、- (マイナス記号) および# (番号記号) を使用できます。
- 128 文字以下で指定する必要があります。

例: orcl.yourcompany.com

「**SID**」：OracleAS Metadata Repository データベースのシステム識別子を入力します。通常、これはグローバル・データベース名ですが、ドメイン名は含めません。SID は、すべてのデータベースで一意である必要があります。

この SID 名には、前述したグローバル・データベース名のデータベース名の部分と同じ制限事項があります。

例：orcl

「**データベース・キャラクタ・セットの選択**」：データベースに使用するキャラクタ・セットを選択します。

「**データベース・ファイルの場所**」：データ・ファイル・ディレクトリの親ディレクトリへのフルパスを入力します。このディレクトリはすでに存在している必要があり、このディレクトリへの書き込み権限を所有している必要があります。

インストーラによって、指定したパスのサブディレクトリにデータ・ファイルがインストールされます。インストーラは、サブディレクトリの名前にデータベース名を使用します。たとえば、グローバル・データベース名に orcl.yourcompany.com と指定し、データベース・ファイルの場所に /data/dbfiles と指定すると、インストーラは、次のディレクトリにデータベース・ファイルを格納します。
/data/dbfiles/orcl

ディレクトリを配置するファイル・システムには、1.3GB 以上の空きディスク領域が必要です。格納するデータ量に応じて、本番データベース用に追加のディスク領域が必要です。

「次へ」をクリックします。

12. 「データベース・スキーマのパスワードの指定」画面

データベース管理ユーザーのパスワードを設定します。これは、データベース管理に使用する権限付きアカウントです。すべてのユーザーに同じパスワードを使用することも、ユーザーごとに異なるパスワードを使用することもできます。

「次へ」をクリックします。

13. 「インスタンス名と ias_admin パスワードの指定」画面

「インスタンス名」：このインスタンスの名前を入力します。インスタンス名には、英数字および_（アンダースコア）を使用できます。1つのコンピュータに複数の Oracle Application Server インスタンスがある場合は、インスタンス名は一意である必要があります。

例：infra

「ias_admin パスワード」および「パスワードの確認」：ias_admin ユーザーのパスワードを入力して、確認します。これは、このインスタンスの管理ユーザーです。

パスワードは 5 文字以上で、そのうちの 1 文字は数字にする必要があります。

例 : welcome99

「次へ」をクリックします。

14. 「サマリー」画面

選択した内容を確認し、「インストール」をクリックします。インストーラによって、ファイルがインストールされます。

15. root.sh の実行ダイアログ

注意 : このスクリプトは、ダイアログが表示されるまで実行しないでください。

別のウィンドウで root ユーザーとしてログインし、root.sh スクリプトを実行します。スクリプトは、このインスタンスの Oracle ホーム・ディレクトリにあります。

root.sh スクリプトを実行した後で、「OK」をクリックします。

16. 「コンフィギュレーション・アシスタント」画面

この画面には、Oracle Application Server コンポーネントを構成する Configuration Assistants の進捗状況が表示されます。

17. 「インストールの終了」画面

「終了」をクリックして、インストーラを終了します。

6.2 Portal and Wireless または Business Intelligence and Forms 中間層のインストール

次の手順を実行すると、Portal and Wireless または Business Intelligence and Forms 中間層がインストールされ、[第 6.1 項「OracleAS Infrastructure のインストール」](#)でインストールした OracleAS Infrastructure を使用するように構成されます。

1. インストーラを起動します。詳細は、[第 4 章「インストーラの起動」](#)を参照してください。
2. 「ようこそ」画面
「次へ」をクリックします。
3. コンピュータに初めて Oracle 製品をインストールする場合は、インストーラによって次の画面が表示されます。
 - a. 「インベントリ・ディレクトリと資格証明の指定」画面

「インベントリ・ディレクトリのフルパスを入力してください」：
インベントリ・ディレクトリへのフルパスを入力します。この
ディレクトリは、製品ファイル用の Oracle ホーム・ディレクト
リとは異なります。

例 : /opt/oracle/oraInventory

「オペレーティング・システム・グループ名の指定」：インベントリ・ディレクトリへの書き込み権限を持つオペレーティング・システム・グループを選択します。

例：oinstall

「次へ」をクリックします。

b. orainstRoot.sh の実行ダイアログ

プロンプトが表示されたら、異なるシェルで root ユーザーとして orainstRoot.sh スクリプトを実行します。このスクリプトは、インベントリ・ディレクトリにあります。

スクリプトを実行した後で、「**続行**」をクリックします。

4. 「ファイルの場所の指定」画面

「**名前**」：この Oracle ホームを識別する名前を入力します。

例：OH_PORTAL

「**パス**」：インストール先のディレクトリへのフルパスを入力します。これは Oracle ホームです。インストール先ディレクトリが存在しない場合は、Oracle Universal Installer によって作成されます。

例：/opt/oracle/oraPortal

「次へ」をクリックします。

5. 「インストールする製品の選択」画面

「**Oracle Application Server**」を選択し、「次へ」をクリックします。

6. 「インストール・タイプの選択」画面

「**Portal and Wireless**」または「**Business Intelligence and Forms**」を選択し、「次へ」をクリックします。

7. 「インストール前の要件の確認」画面

この画面に表示される要件を満たしていることを確認して、すべてのチェック・ボックスを選択し、「次へ」をクリックします。

8. 「構成オプションの選択」画面

Portal and Wireless の場合は、次のオプションを選択します。

■ **OracleAS Portal**

■ **OracleAS Wireless**

Business Intelligence and Forms の場合は、次のオプションを選択します。

■ **OracleAS Portal**

■ **OracleAS Wireless**

■ **OracleBI Discoverer**

■ **OracleAS Personalization**

■ **OracleAS Reports Services**

■ **OracleAS Forms Services**

- 「次へ」をクリックします。
9. 「ポート構成オプションの指定」画面
「自動」を選択し、「次へ」をクリックします。
10. Oracle Internet Directory の接続情報を入力します。Oracle Internet Directory は、OracleAS Infrastructure のインストール時にインストールされます。
- a. 「Oracle Internet Directory への登録」画面
- 「ホスト名」: Oracle Internet Directory を実行しているコンピュータの名前を入力します。
- 「ポート」: Oracle Internet Directory がリスニングしているポートのポート番号を入力します。Oracle Internet Directory のポート番号は、ORACLE_HOME/install/portlist.ini ファイルを確認します。ORACLE_HOME は、OracleAS Infrastructure のインストール先です。
- 「Oracle Internet Directory には SSL 接続のみ使用」を選択した場合は、portlist.ini ファイル内の Oracle Internet Directory (SSL) パラメータからポート番号を取得する必要があります。
- 「次へ」をクリックします。

b. 「Oracle Internet Directory に対するログインの指定」画面

「ユーザー名」: orcladmin と入力します。これは、Oracle Internet Directory 管理者の名前です。

「パスワード」: orcladmin ユーザーのパスワードは、インフラストラクチャの ias_admin ユーザーのパスワードと同じです。このパスワードは、インフラストラクチャをインストールしたときに入力したもので（[第 6.1 項「OracleAS Infrastructure のインストール」](#) の手順 13 を参照）。

「次へ」をクリックします。

11. 「Metadata Repository の選択」画面

「リポジトリ」: この中間層インスタンスで使用する OracleAS Metadata Repository を選択し、「次へ」をクリックします。

12. 「送信メール・サーバー情報の指定」

この画面は、Business Intelligence and Forms インストールを選択した場合にのみ表示されます。

OracleAS Reports Services で使用する送信メール（SMTP）サーバーの名前を入力します。空白のままにしておいて、後で設定することもできます。「次へ」をクリックします。

13. 「インスタンス名と ias_admin パスワードの指定」画面

「**インスタンス名**」: このインスタンスの名前を入力します。インスタンス名には、英数字および_（アンダースコア）を使用できます。1つのコンピュータに複数の Oracle Application Server インスタンスがある場合は、インスタンス名は一意である必要があります。

例: PORTAL

「**ias_admin パスワード**」および「**パスワードの確認**」: ias_admin ユーザーのパスワードを入力して、確認します。これは、このインスタンスの管理ユーザーです。

パスワードは 5 文字以上で、そのうちの 1 文字は数字にする必要があります。

例: welcome99

「**次へ**」をクリックします。

14. 「サマリー」画面

選択した内容を確認し、「**インストール**」をクリックします。インストーラによって、ファイルがインストールされます。

15. root.sh の実行ダイアログ

注意: このスクリプトは、ダイアログが表示されるまで実行しないでください。

別のウィンドウで root ユーザーとしてログインし、root.sh スクリプトを実行します。スクリプトは、このインスタンスの Oracle ホーム・ディレクトリにあります。

root.sh スクリプトを実行した後で、「OK」をクリックします。

16. 「コンフィギュレーション・アシスタント」画面

この画面には、Oracle Application Server コンポーネントを構成する Configuration Assistants の進捗状況が表示されます。

17. 「インストールの終了」画面

「終了」をクリックして、インストーラを終了します。

7 「ようこそ」 ページへのアクセス

インストールの後に Oracle Application Server の「ようこそ」ページにアクセスして、インストールに成功したことを確認します。「ようこそ」ページの URL は、次のとおりです。

`http://hostname.domainname:HTTP_port`

ORACLE_HOME/install/portlist.ini ファイルを確認して、`HTTP_port` を特定します。このポートは、「Oracle HTTP Server listen port」行に表示されます。

注意： 1 つのコンピュータに複数の Oracle Application Server インスタンスがインストールされている場合は、各インスタンスが独自のポート番号のセットを持っています。正しい Oracle ホーム・ディレクトリの portlist.ini ファイルを確認し、必ず正しいポート番号を使用してください。

「ようこそ」ページには、次のような役立つページへのリンクが含まれています。

- Oracle Application Server 10g リリース 2 (10.1.2) の新機能
- Oracle Enterprise Manager Application Server Control (Application Server Control)。これは、ブラウザベースの管理ツールです。
- リリース・ノート
- 次の操作
- デモ

8 既存の Oracle データベースへの OracleAS Metadata Repository のインス トール

OracleAS Metadata Repository を既存の Oracle データベースにインストールする場合は、Oracle Application Server Metadata Repository Creation Assistant と呼ばれるツールを実行します。

Oracle Application Server Metadata Repository Creation Assistant は、「OracleAS Metadata Repository Creation Assistant」 CD-ROM に格納されています。

このツールの使用方法の詳細は、Oracle Application Server Metadata Repository Creation Assistant のユーザーズ・ガイドを参照してください。

9 追加情報

この項では、次の内容について説明します。

- 製品のライセンス
- Oracle Support へのお問合せ
- 製品マニュアルの入手方法

製品のライセンス

このメディア・パックに含まれている製品は、トライアル・ライセンス契約に基づき、30日間、インストールおよび評価できます。ただし、30日間の評価期間後もいづれかの製品の使用を継続する場合、プログラム・ライセンスをご購入いただく必要があります。

Oracle Support へのお問合せ

Oracle 製品サポートをご購入いただいた場合、Oracle Support に、年中無休で 24 時間いつでも、お問い合わせいただけます。Oracle 製品サポートの購入方法、または Oracle Support への連絡方法の詳細は、Oracle Support の Web サイトを参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/>

製品マニュアルの入手方法

Oracle 製品のマニュアルは、HTML および Adobe 社 PDF 形式で提供されており、入手方法がいくつかあります。

- メディア・パック内のディスク：

- プラットフォーム固有のマニュアルは、製品ディスクに含まれています。マニュアルにアクセスするには、CD-ROM のトップレベル・ディレクトリにある `welcome.htm` ファイルを参照してください。

- Oracle Technology Network Japan の Web サイト：

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/>

PDF ドキュメントを表示するには、必要に応じて、Adobe 社の Web サイトから、無料の Adobe Acrobat Reader をダウンロードしてください。

<http://www.adobe.com/>

10 その他の情報

クイック・リファレンス

リソース	連絡先 /Web サイト
開発者向けのテクニカル・リソースにアクセスできます。	http://www.oracle.com/technology/global/jp/
インストール・マニュアルにアクセスできます。	http://www.oracle.com/technology/global/jp/tech/install/
サポート・サービスに関する情報にアクセスできます。	http://www.oracle.com/lang/jp/support/
日本オラクル技術営業の連絡先です。	0120-155-096 (受付時間などの詳細は後述)

オラクル製品のインストールに関する情報

オラクル製品のインストールに関する情報およびマニュアルを提供しています。

次の URL をご参照ください。ただし、個々の環境に依存する問題、検証が必要なケースはサポート・サービス（有償）の締結が必要になりますのでご了承ください。

□ OTN インストール・センター

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/>

上記 URL から 「テクノロジーセンター」 → 「インストール方法」 をご覧ください。

□ Oracle Technology Network 掲示板

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/>

上記 URL から 「掲示板」 → 「ビギナー」 → 「初心者の部屋」 をご覧ください。

□ インストレーション・ガイド・ダウンロード

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/>

上記 URL から 「マニュアル」 → 「<製品名>」 → 「<OS>」 をご覧ください。

□ 製品 FAQ 検索

<http://support.oracle.co.jp/>

上記 URL から 「製品 FAQ 検索」 をご覧ください (キーワード : 「インストール」、「install」など)。

これらを参照しても解決されないインストール時の不明 / 問題点については支援サービスを提供しています。次のオラクル製品が対象になりますので、次の URL からご質問をお願いいたします。

□ インストールサービスご利用方法

http://www.oracle.co.jp/install_service/

- 対象製品
 - Oracle Database Standard Edition
 - Oracle Database Personal Edition
- 対象 OS
 - Linux x86
 - Microsoft Windows

Oracle Technology Network Japan

OTN Japan は開発者に必要な技術リソースを提供する会員制の日本オラクル公式技術サイトです。OTN Japan にご登録（無償）いただくと、技術資料、オンライン・マニュアル、ソフトウェア・ダウンロード、サンプル・コード、掲示板、オラクル関連書籍のディスカウント、OTN 有償プログラムなど様々なサービスを受けることができます。

□ OTN Japan 登録方法

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/>

上記 URL から「各種ガイドライン」→「はじめての方へ」をご覧ください。

□ 技術資料

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/products/>

オラクル製品の最新情報を提供します。目標とする技術資料をすばやく参照できるわかりやすいカテゴリーになっています。

□ ソフトウェア・ダウンロード

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/software/>

オラクル製品のトライアル版、早期アクセス版、ユーティリティ、ドライバなどを無償でダウンロードできます。最新バージョンをタイムリーに掲載していますので、OTN Japan で提供している技術資料、ドキュメントなどとあわせて使用することにより、いち早く最新のオラクル・テクノロジを体験できます。

□ ドキュメント

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/>

オラクル製品のインストレーション・ガイド、リリース・ノートなどのドキュメント（マニュアル）を掲載しています。製品に同梱されているドキュメントから有償マニュアルに至るまで、最新のドキュメントをタイムリーに掲載しています。

□ サンプル・コード

http://otn.oracle.co.jp/sample_code/

開発者がちょっとしたところで苦労するプログラムのサンプルを掲載しています。オラクル最新テクノロジーに準拠したサンプル・プログラムの数々をお役立てください。

□ 掲示板

<http://otn.oracle.co.jp/forum/index.jspa?categoryID=2>

オラクル製品を使用して開発される皆さんためのコミュニティです。Webによるディスカッション・フォーラム（掲示板）を通して、オラクル開発者間で情報交換ができます。それぞれの開発ノウハウを共有することで、より効率的な開発ができます。

□ OTN 有償プログラム

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/upgrade/>

OTN 有償プログラムは、OTN 会員様向けの有償アップグレード・サービスです。OTN Japan サイトでご提供している無償サービスに加

え、最新のオラクル製品を開発ライセンスでご使用いただける OTN Software Kit（日本語版 CD-ROM）の送付やオラクル技術書籍ご購入時のディスクアントなど、有償ならではの様々なサービスをご提供いたします。

□ お薦めサービス「SQL 構文検索サービス」

<http://otn.oracle.co.jp/document/sqlconst/>

SQL 文や SQL 関数をオンラインで参照できる SQL 構文検索サービスです。

□ お薦めサービス「Oracle エラーメッセージ検索」

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/reference/msg/index.html>

オラクル製品の使用中に表示されるエラー・メッセージについて検索します。

□ お薦めサービス「TechBlast メールサービス」

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/techblast/>

OTN Japan では配信を希望された会員の皆様へほぼ月に 1 ~ 2 回メールをお送りしています。新着情報のほか、会員の皆様にぜひともお知らせしたいセミナー・イベント情報、読み物として製品や最新技術に関する連載を掲載しています。

OracleDirect

OracleDirect では、電話とインターネットを通じて、製品ご購入前のオラクル製品に関するお問い合わせをはじめとする、お客様からの様々なお問合せに対応いたします。

OracleDirect に関する詳細は、次の Web サイトをご覧ください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/corporate/contact.html>

お問合せ先

TEL : 0120-155-096

Web 問合せ :

<http://www.oracle.com/lang/jp/corporate/contact.html>

※ 受付時間 : 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 18:00（土、日、祝祭日、年末年始を除く）

また、OracleDirect にてお受けできるご質問内容は以下の通りとなりますので、ご連絡の前にご確認ください。

ご質問にお答えできる内容（概要）

- 製品に関して日本国内で公表されている一般的な内容
 - 出荷日、出荷予定日
 - 価格およびライセンス
 - システム要件

- ハードウェア（メモリ容量、ディスク容量）
 - ソフトウェア（対応 OS、対応コンパイラなど）
 - 製品の基本機能（カタログに記載されているレベルまで）
 - 製品バージョン（RDBMS、Netなどの接続対応バージョンの案内）
 - サポート・サービス契約の概要
※ サポート・サービス契約の照会、確認、お見積もりはディストリビューションセンターまでお願ひいたします。
- カタログ、資料請求、セミナー内容に関するお問合せ
 - お客様の個別環境への提案
 - 製品概要の説明や応用例、システム構成について営業担当者への直接相談
- 以下のお問い合わせにはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。
- マニュアルに関するご質問（オンライン・マニュアルも含む）
 - 国内未発表の内容（日本オラクルが正式に公表した内容以外のもの）
 - 他社から販売されているオラクル関連製品に関するお問合せ
 - 技術的な内容（テクニカル・サポート・レベル）

サポート・サービス

オラクルではお客様のシステムの健康状態を維持するために、サポート・サービスをご用意しています。オラクル製品のエキスパートが、様々な形でお客様の問題解決のお手伝いをいたします。

- 障害回避策提示
- 修正プログラムの提供
- インターネット・サポート
- 技術情報の提供など

Oracle Support のサポート契約をご締結のお客様は、以下の技術サポートを受けられます。サポート・サービスにはインターネットなどによる技術サポートの他、各種技術情報へのアクセス、ご契約済み製品の新バージョンの提供、Oracle Support NewsLetter（毎月）の提供などが含まれます。

□ 技術サポート

ご契約のお客様は、インターネットなどによる技術サポートを受けられます。

お問合せは、毎日 24 時間受付けております。お問合せの方法についての詳細は、初回ご契約時にお送りする「スタートアップ・キット」をご覧ください。

インターネットでは、次の Web サイトで Oracle Support について紹介しています。

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/>

□ Oracle MetaLink

Oracle Support では、24 時間ご利用いただけるグローバルなポータル・サイトとして Oracle MetaLink をご用意しています。作業効率を高める強力な情報管理機能や、パーソナライズ機能などを備えています。

- 世界中で蓄積された 40 万件以上もの技術情報（英語）
- オラクル製品エキスパートへの日本語と英語どちらでも可能な技術問い合わせ
- 24 時間いつでも可能な最新のオンライン・セミナー（英語）
- 自動化されたヘルス・チェック機能や技術問い合わせ情報の統合管理など、先進的なサポート・ツール

□ ナレッジ・ベース KROWN

KROWN は、お客様からの技術問い合わせなどを基にして、これまでに 47,000 件以上の技術情報を収録したナレッジ・ベースです。情報は日々、追加 / 更新されており、常に最新情報を入手できます。

また、製品別 / システム・ライフサイクル別にナレッジを分類するディレクトリ・サービスでは、ライフサイクルの各フェーズで有効な技術情報により、トラブルを未然に防ぐこともできます。

□ Oracle Support NewsLetter

毎月更新されるサポート技術情報や、新しいバージョンの製品情報などを Email または Web でお届けします。Oracle Support NewsLetter には以下の情報が掲載されています。

- 重要技術情報
- 製品パッチ情報
- その他 サポート・サービス関連情報

□ お問合せ先

日本オラクル株式会社 ディストリビューションセンター

TEL : 0570-093812

※ 受付時間 : 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00（土、日、祝祭日、年末年始を除く）

ディストリビューションセンターでは、Oracle Support のサポート契約について、以下のような情報をご案内いたします。

- 新規サポート契約に関するご相談
- サポート契約に基づくサービス内容のご紹介
- サポート契約書の記入方法
- サポート・サービス料金について

または、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/>

研修サービス

日本オラクルの研修サービスに関する詳しいお問合せは下記までお願いいいたします。研修サービスに関する詳細は、次の Web サイトでもご紹介しています。

http://education.oracle.com/pls/web_prod-plq-dad/db_pages.getpage?page_id=3&p_org_id=70&lang=JA

お問合せ先

日本オラクル株式会社 オラクルユニバーシティ

TEL : 0120-155-092

※ 受付時間：9:00～12:00、13:00～17:00（土、日、祝祭日、年末年始を除く）

11 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかしスクリーン・リーダーは括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティについての評価や言及は行っておりません。

